

みやき便り

No. 8

2017年3月28日発行

3月号

日本生協連
組合員活動部

2011年5月から仮設住宅集会所を中心に最大時は57ヶ所で開催してきた「ふれあい喫茶」は、2017年度は県内10数ヶ所に減少する見込みです。仮設住宅で暮らす方がいる間は「ふれあい喫茶」は継続しますが、発災から7年目を迎え、多くの生協の皆様から継続して茶菓子や手作りキット等のご支援をいただきましたこと、改めまして御礼申し上げます。



ふれあい喫茶 de バスツアー

コープこうべ第4地区活動本部の皆さんからの支援募金を活用し、バスツアーを開催しました。名取市の美田園第一仮設住宅と屋敷団地仮設住宅、山元町旧坂中跡地仮設住宅、亘理町西木倉公営住宅を經由して、バス2台計59人が参加しました。

参加者からは「いつも一人でいるので、大勢で出かけてみんなで大きなお風呂に入ったら胸のもやもやが取れてスッキリ」「孫の面倒や介護をしている毎日、今日は久しぶりにゆっくりできた」「支援いただいたコープこうべの皆さんに感謝したい」などの感想が寄せられました。



支援に感謝の声が寄せられています



気仙沼メンバー集会室ぽけっとで開催したさわやかお茶会では、コープぎふの皆さんからの「柿ジュース」に添えられた写真入りメッセージを参加された方々に読んで頂きました。「柿ジュース」は初めて飲む方が多く「もものネクターみたいね」「濃厚でおいしい」と話されていました。



石巻市の蛇田店オープンカフェには、ひなまつりを前に、ぴったりのおまんじゅう「雛小巻」が生協しまねの皆さんより届き、「お雛様の絵がとてもかわいい!」「季節感があって嬉しくなるね」と喜ばれました。参加した方は、「震災の支援を今でも続けてくれている、その気持ちが心強いです」と話されていました。



今までありがとう またお会いしましょう

県内の仮設住宅の閉鎖に伴い、最後のふれあい喫茶が開催されているところもあります。

<みなし仮設住宅：JR南小泉社宅>

入居者の引っ越しに伴い3月末で閉鎖となるみなし仮設住宅・JR南小泉社宅では、最後のふれあい喫茶が行われました。折り紙で「福わけ鶴」を折って中にあめを入れお互いにプレゼントしあったり、みんなでオープンサンドを作ったりと、和やかなお別れ会になりました。全国の珍しいお菓子の支援への感謝や、これまでの喫茶の中で手作りした物や料理したこと、ボランティアからも感謝のことが寄せられるなど、5年半を振り返り、話は尽きませんでした。



<旧坂中跡地仮設住宅集会所>

旧坂中跡地仮設住宅集会所で、最後のふれあい喫茶としてお別れ会を行いました。2011年6月第1回の喫茶から昨年12月までの約6年間の写真をスライド上映で振り返り、当時を思い出して泣いたり笑ったりとにぎやかに過ごしました。



最後の一人ひとことでは「あの頃、つらくてつらくてしょうがなかったけど、ここに来ると笑顔になれた」「生協のお茶会に本当に助けられた」「ぜひ、同窓会をやってまた会いましょう」と笑顔でお話いただきました。



住まいの再建に関する調査結果

被災された方々の住まいの再建に関する調査結果が宮城県から報告されています。

プレハブ仮設住宅に入居したのは比較的高齢の世帯が多く、民間賃貸住宅（みなし仮設住宅）には震災前もアパートなどに住んでいた若い世代が多い傾向がありました。再建にあたっては、プレハブ仮設住宅からは4割以上が災害公営住宅へ転居したのに対し、みなし仮設住宅から災害公営住宅への転居は2割以下でした。災害公営住宅での高齢化率は約38%と、県全体の高齢化率約25%を大きく上回っていることから、見守りや孤立防止の取り組みが、より重要となっています。

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池、住吉